

C-7 民俗衣装に関する研究(オ7報)彦山絵巻の宣度長床組の服装
福岡教育大○後藤信子 近畿女子短大 久保田初板

目的 今回は福岡県田川郡添田町英彦山神社に保管されている、彦山絵巻の宣度祭の部分から当時の山伏たちの服装について考察した。

方法 彦山絵巻には「松会」という行事を描いたもので一巻は御田祭、他の一巻は神幸祭の模様を描いたもので、巾27cm長さ前者が14m、後者が17mで彩色とはどこもしたものである。作者、年代とも不明であるが近世中紀のものとして推定される。松浦資料館に保管されている彦山絵巻には文化5年、松浦静山といて字さしひとある。

この祭は、神事兩輪組(惣方)が御田祭、神幸祭の神事を、如法經組は仁王護国經会などの佛事を担当し、宣度長床組が修験道の中核をなす「先達」ときの宣度祭を担当する。

今回はこの絵巻の宣度祭の部分に現われた山伏の服装と「宣度大嘗・次第」、「古書集義」等の記録ならびに現存する装束とを照合しながら調査、考察した。

結果

- 1 彦山文書の「宣度祭大嘗之次第」によれば、衣服着用に関する事項が、階位別、行事別に詳細に代々書き送られていた。
- 2 一般の儀式用の衣帯は主に袴衣、頭襟、袈裟を着用する。
- 3 奉入装束は階位によって異なる。

以上のことから、儀式、行事および各階位によって、服装に関する定めが厳しかったものと考えられた。